

施策評価シート(平成24年度評価実施)	担当部課名	環境清掃課	関連部課名	
基本目標	美しい自然を未来につなぐまちづくり【環境・生活基盤】			
施策名	循環型社会形成			
環境負荷の少ない持続可能な生活環境づくりにむけて、ごみの減量や資源のリサイクル、資源・エネルギー循環などを通じて資源循環型社会の構築を進めるとともに、ごみ処理施設やし尿処理施設の適正な維持管理・運営を通じて、安全かつ安定的な廃棄物処理を推進します。				
施策が目指す蒲郡市の将来の姿				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ごみの減量や資源の効率的な活用が進み、環境負荷の少ない、快適な生活環境になっています。</li> <li>●市民、事業者、行政が一体となった環境意識の高いまちづくりができています。</li> </ul>				

#### ◆具体化した施策の取り組み実績

##### 1 資源循環型社会の構築

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
ごみ減量施策	プラスチック製容器包装の収集	プラスチック製容器包装の収集	プラスチック製容器包装の収集
5R行動	5R行動の推進	5R行動の推進	5R行動の推進
公共施設におけるエネルギーの有効活用	ユトリーナ蒲郡の委託管理	ユトリーナ蒲郡の委託管理	ユトリーナ蒲郡の委託管理

##### 2 リサイクルの促進と地域コミュニティの活性化

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
リサイクル推進のための施設整備	リサイクルプラザの管理	リサイクルプラザの管理	リサイクルプラザの管理
クリーンサポーター制度の充実	クリーンサポーター 352人	クリーンサポーター 296人	クリーンサポーター 317人
資源回収団体育成奨励金事業	35団体 8,143,700円	35団体 7,531,700円	35団体 7,500,000円

##### 3 適正な廃棄物処理

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
一色処分場の管理	一色処分場の埋立中止	一色処分場の適正管理	一色処分場の適正管理
事業系廃棄物の適正処理	事業系廃棄物の適正処理の周知	事業系廃棄物の適正処理の周知	事業系廃棄物の適正処理の周知
資源物売払数量及び収入	5,183,280kg 83,977,928円	4,964,990kg 89,942,455円	

◆評価指標

指標名	区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	将来目標
可燃ごみの収集量	目標値		15,000トン	15,000トン	15,000トン
	実績値	14,815トン	14,717トン		平成32年度
プラスチック製容器包装の収集	目標値		400,000kg	400,000kg	400,000kg
	実績値	281,510kg	382,460kg		平成32年度
資源物売払数量及び収入	目標値		-	-	-
	実績値	5,183,280kg 83,977,928円	4,964,990kg 89,942,455円		平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
可燃ごみの収集量	蒲郡市内の可燃ごみ委託収集量年間統計
プラスチック製容器包装の収集	平成22年11月より市全域で収集開始したプラ容器の年間収集量
資源物売払数量及び収入	市民の分別意識を高め、資源化して売払い収入を得る。

◆指標の分析

◆プラスチック製容器包装の資源物としての分別収集を平成19年10月から一部地域で開始したが、その影響により今まで焼却されていたプラスチック製容器包装が可燃物から差し引かれたため、平成19年度から平成22年度は可燃ごみの委託収集量は大きく減少していた。しかし平成22年度に市全域のプラ容器収集を開始したため、翌年の平成23年度においては可燃ごみの大きな減少は止まった。  
 ◆資源物の収集量については大きな増減はないものの、売払い収入は資源物の引き取り単価によって大きな差がでる。

◆今後の方針

**施策の課題**  
 ◆プラスチック製容器包装の回収を始めたため、今まで可燃ごみとして焼却されていたプラ容器を再利用できるようになり、可燃ごみの大幅な減量に成功した。市全域の回収は平成22年度中に開始したため、平成23年度以降は大幅な可燃ごみの減量は難しいと思われるが、回収したプラ容器のうち汚れがあるため再利用に回せず焼却しているものが、回収量の半分近くを占めている。無駄をなくすためプラスチック製容器包装の分別の徹底が必要。  
 ◆その他の資源物についても分別はしっかりと行い再利用率を上げるのが課題。

**今後の施策展開**  
 ◆プラスチック製容器包装をせっかく回収しても汚れがあるため再利用できずに焼却している割合が多いため、今後はこれを改善していきたい。汚れをとることが難しい場合は可燃ごみとして捨ててもらふなど、分別を正確にやってもらえるよう呼びかけていく。  
 ◆その他の資源物についても分別を正確にするよう呼びかけていく。

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	A: 現状のままでよい。
	コメント	可燃ごみ・不燃ごみを減らしていくことは、施設の延命化にもつながり、市としても大きく負担を減らすことができる。ただし、現状以上に分別を細かくすることは、市民も大変なので、今後は、現在の分別し方の徹底を図る啓発に努める必要がある。

部長評価	施策の進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり順調に進行している。
	コメント	焼却施設や処分場等の延命化を図るには、ごみ減量化が不可欠である。今後も施策内事業を効果的に組み合わせることが重要である。

施策に属する事務事業一覧

総合計画	所管課	番号	事業名	人件費を除く 事業費(千円)	人件費 (千円)	人工	総合 評価	事業の 種別	市長 コメント	実施 計画
4-5	環境清掃課	301	生し尿・浄化槽汚泥適正処理事業(し尿くみ取り・清幸園維持管理)	81,150	13,493	2.45	A	ウ	—	×
4-5	環境清掃課	302	資源回収団体育成奨励金交付事業	7,532	1,804	0.40	B	オ	—	○
4-5	環境清掃課	303	生活系一般廃棄物等収集運搬事業	233,592	19,277	3.55	A	ア	1	○
4-5	環境清掃課	304	一般廃棄物等中間処理事業	705,047	62,336	12.10	A	ア	1	○
4-5	環境清掃課	305	最終処分場管理運営事業	43,465	16,241	2.85	A	ア	1	○
4-5	環境清掃課	306	クリーンセンター等一般管理事業	3,548	5,136	0.70	A	ア	1	○